常　楽　院

【所　在　地】日置市吹上町田尻中島
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 29 年３月 15 日

吹上町田尻中島にある盲僧寺で，『常楽院沿革史』によると妙音寺常楽院の住職宝山検校が，建久３（1192）年島津忠久に従って薩摩に下向し，この地を卜して建立したものという（実際は忠久は下向していない）。のち，32 世大光院のとき，島津貴久より三州盲僧の総家督を命ぜられたが，33 世浄徳院のとき，島津家久の命により山之口馬場（現在の鹿児島市）に移され，中島の常楽院はその末寺とされた。

10 月 12 日の宝山の命日には墓碑前で妙音十二楽の法要が行われる。妙音十二楽は江戸時代初期に整えられたと伝えられ，琵琶を中心に太鼓，笛，手拍子，鐃鉢，銅鑼，木魚，錫杖，大法螺，小法螺などの楽器編成で，南九州各地の僧侶が集まり奏される。

この場所は，中島の名の示す如く，かつては田尻の低湿地の中に小高く島のように残っていた場所で, 常楽院の周囲は一面低湿地とそれを利用した湿田がひろがっていたという。